

平成22年度 入学試験問題  
(第1次)

国 語

〔 50 分 〕

〔 注 意 事 項 〕

1. 指示があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 解答は、すべて別の解答用紙に記入して下さい。

世 田 谷 学 園 中 学 校

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今日と同じ三年前の十一月の海での小さな出来事。  
それもまた ① 一期一会の人生に似ていた。

一羽のカモメがいた。

群れからはぐれカモメだ。

私はそれをゼロと名づけていた。

片方の翼の折れた特攻隊のゼロ戦が、きりもみ状態で海に落ちる太平洋戦争映画の残像と、そのカモメが結びついたのだ。  
ゼロの右の羽は大きくだらりとぶら下がり、砂浜を引きずっていた。何かの事故で羽の根元の骨が折れているらしい。私は獣医に連れて行こうかと何度か捕獲を試みた。だがカモメには恐怖心があり、人を近づけさせない。走って追うとあわてて ミズギワから波の中に入り、バランスを失って溺れそうになったこともあった。素人目にも整形は無理で羽を切り落とすしかないのだろうと思ったから、私はそれ以上干渉しなかった。

だがあのトメばあさんだけは別だった。

なぜかトメばあさんが近づいてもゼロは逃げないのだ。

トメさんはときおり浜に出てゼロがいるのを認めると家から残飯を持ってきて二、三メートルまで近寄って投げ与える。

ゼロは逃げなかった。

あんな臆病なカモメがなぜ逃げないのだろうか？

私には A わからなかった。

そしてふと考える。

トメさんはゼロのことを自分の子供のように思っているのじゃないかと。

八十四歳のトメさんはたった一人で海の近くの古い家に暮している。旦那とはずいぶん前に死にわかれていた。そして木更津の方に住んでいるたった一人の息子を四年前に交通事故で亡くしている。

息子に先立たれたトメさんは家にこもって何日も何日も泣き通した。泣き止んだトメさんは驚くほど B 老け込んでしまっていた。そんなトメさんの前にある日ゼロが現れたのだ。

トメさんは浜に散歩に出てゼロを認めると「コーコーコー」と小さな、それはそれは優しい声で呼んだ。「来い来い来い」と言う意味らしい。ゼロは自分から近づきこそしなかったがトメさんが近づいても逃げなかった。

そんな光景を見るにつけ、<sup>②</sup> 彼女はゼロのことを交通事故で亡くした息子の生れ変わりのように思っているのじゃないかと私には思えた。そしてそんなトメさんの気持ちがゼロには伝わっているのではないかと。

生きものの心というものは不思議だ。

③ どうやら私のように同情だけではカモメの心と同調することは出来ないらしい。

だが私には心配なことがひとつだけあった。

それは放浪犬クビワの存在だ。

放浪犬クビワは一、二ヶ月に一回くらい砂浜に現れる。

むかしは人に飼われていたと見え、ボロボロに古びた首輪をつけたまま放浪しているのだ。だから私はそれをクビワと名づけていた。クビワは毛のふさふさした大きな犬だ。犬種はわからない。白っぽい茶色の長い毛並みはまるで④レゲエ歌手の頭のようにすっかり汚れてほつれあつていて、体全体が使い古しのモップのようになっていいるからだ。

クビワは無感動で尻尾は力なく⑤タれたままだった。人をいっさい信用しない。⑥クチブエを吹いても見向きもしない。エサをやるうと近づこうとするとゼロと同じように逃げる。歳老いていいると見え、目はほとんど衰え、嗅覚だけで行動しているらしい。

ごくたまに砂浜に現れるそのクビワとゼロが偶然この砂浜で出くわした場合、何が起こるだろう。それが心配だったのだ。ひよつとしたらクビワはゼロを襲うのじゃないか……。

猫は数匹このあたりに住んでいるがゼロを襲うことはなかった。カモメと言ってもいくつかの種類があり、ゼロの体はす

ごく大きいのだ。一度ゼロが砂浜を歩いている時、前方に一匹の猫がいたことがあったが、猫は片羽を引きずった大きなカモメの異様な姿に恐れをなしたのか、警戒するように身を低くして逃げて行った。

そんなある日、十一月の半ばの肌寒い夕暮れどきのことだ。恐れていたことが起った。

いつも浜にたむろしているカモメの群れがいつせいに飛び立ち、海面を這うように南側の⑦ギョコウの方に飛んで行った。何かあったのかと見やると薄暗くはじめた浜の遠くに一匹の大きな動物が現れていた。

クビワだった。

クビワがいつものように老いた足を引きずるようにのそのそと歩いていた。クビワの歩いて来るこちら側に一羽のカモメがいた。群れから取り残されたゼロだ。私はクビワを追い払おうと走って浜に出た。だが具合の悪いことにゼロはクビワの方向に逃げて行く。私は引き返し、物陰に隠れて様子を見守った。もしクビワがゼロを襲うようなことがあれば一気に飛び出すつもりだった。

そんなとき「コーコーコー」と遠くで声がした。

トメさんの声だ。

見ると薄暗い浜でトメさんがゼロに近づいている。

クビワもトメさんやゼロの方にどんどん近づいている。風向きはクビワのいる北から南に向かって吹いていたのでクビワの嗅覚はおそらくトメさんやゼロの存在を確認できないはずだ。

そして⑧トメさんとクビワとゼロは数メートルのところまで近づく。一気にゼロを襲うクビワと、あわてふためくトメさんの様子が⑨ノウリを走り、私は物陰を飛び出そうと身がまえた。

だが、ここで不思議なことが起こった。  
「コーコーコー」

とまたトメさんのあの優しい声が聞こえたのだ。  
声はクビワにも向けられていた。

クビワは一瞬立ち止まったが、声の方に近づいて行く。

トメさんはクビワとゼロの両方に残飯を投げ与えていた。ゼロとクビワの距離はわずか二メートルにまで近づいていたが、一匹と一羽の動物はゆつくりとトメさんの与えた残飯を食べた。

……不思議な光景だった。

残飯を食べ終えるとゼロとクビワはその場にくつろぐように砂浜に座り込んだ。

トメばあさんもそのかたわらの流木に座っていた。

④ 世界のあらゆる時間が止まったようだった。

静かな波の音だけが聞こえていた。

私の体の力は抜けていた。

(藤原新也「海辺のトメさんとクビワとゼロ」——一部改変・省略による)

⑤ レゲエ……ジャマイカの代表的な音楽

問一——線㉞㉟の片仮名を漢字に直しなさい。

問二——線①「二期一会の人生」とありますが、それはどのような「人生」ですか。その説明として適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一生出会うはずのない不思議な人生
- イ だれも味わったことのない特別な人生
- ウ 何度でもくり返される平凡な人生
- エ たった一度かぎりである貴重な人生
- オ もう戻ってはこない大切な人生

問三——A C に入る言葉として適当なものを次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア きつぱり
- イ さつぱり
- ウ すつかり
- エ しつかり
- オ ついに
- カ ふいに

問四——線②「彼女はゼロのことを交通事故で亡くした息子の生れ変わりのように思っているのじゃないかと私には思えた」とありますが、なぜ「トメさん」が「ゼロ」を「息子の生まれ変わりのように思っている」と考えられるのですか。その理由を六十字以内で説明しなさい。

問五——線③「どうやら私のように同情だけではカメメの心と同調することは出来ないらしい」とありますが、この時の

「私」の気持ちはどのようなものですか。その説明として適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 息子の死を悲しむトメさんの重々しい心境とその悲しみに呼応する「ゼロ」の姿をつらく思う気持ち。

イ トメさんの深い愛情と慈しみの心とそれを感じとったかのような「ゼロ」の様子に胸をうたれる気持ち。

ウ 同情するばかりで愛情がない自分の冷たさとそれを感じた「ゼロ」の反応に腹立たしさを感じる気持ち。

エ 気持ちを通じ合うトメさんと「ゼロ」との交流を羨み自分も同じような関係を結びたいと願う気持ち。

オ 愛情深いトメさんの態度とそれを受け入れるような「ゼロ」の様子から自分の至らなさを責める気持ち。

問六——線④「世界のあらゆる時間が止まったようだった」とありますが、これはどのような様子を表現していますか。その説明として適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 心の交流が無言のうちに行われ、おだやかさが広がっていく様子。

イ 緊迫した状態から解放されて、一気に力が抜けてしまった様子。

ウ あまりにおだやかすぎて、かえって緊張感が高まっている様子。

エ 都会のあわただしさを離れて、海辺でゆったりくつろいでいる様子。

オ 食事後の満足感が静かに広がり、別世界へいざなわれていく様子。

問七「ゼロ」と「クビワ」、そして「トメさん」という三者の共通点を説明しなさい。ただし、解答欄に合わせて答えること。

問八 この文章の表現の特徴を説明したものとしても適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「私」の視点から描くことで細部の多様な感情が読者に伝えられ、視覚的にも色彩豊かな印象をもたらすものとなっている。

イ 野生動物の厳しい世界がたとえを用いて描かれ、生きる難しさが「ゼロ」と「クビワ」の対比により的確に語られている。

ウ 「トメさん」と「私」の二者の立場から語る工夫がなされ、複数の見方が提示されることで思想的な深みが与えられている。

エ 長めの文を多く用いることで緊迫感が巧みに表現され、それとともに静かで寂しげな様子を強く伝えるものとなっている。

オ 出来事に即した淡々とした語りを展開され、「私」の考えが時折挿入されるものの全体として静かな味わいが作られている。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

公共的な乗り物にシルバーシートなるものが出現してから、もうずいぶんときが経つが、私は、これが出現したときになり違和感を抱いた。おそらく少なからぬ人が疑問を感じたのではないかと思う。当時の投書などをあさってみれば、賛否両論でにぎわっていたはずである。しかし、今では既成事実<sup>きせいじじつ</sup>に慣れてしまつて、ほとんどだれもこのシステムに異を<sup>⑦</sup>トナえる人はいないようだ。だが、私の違和感<sup>いごかん</sup>は依然<sup>いぜん</sup>としておさまらない。

現在は「優先席」と名指しされて、老人だけでなく、障害者、妊婦<sup>にんぷ</sup>、小さい子ども連れの乗客などの絵記号シートが貼つてあるのを見かける。また、「お年寄り、体のご不自由な方、小さいお子さんをお連れの方には席を譲りましょう」といった放送が繰り返し流れてくることもある。

この場合、問いたいのは、これらの「弱者」をいたわる心情そのものの是非ではない。こういう枠組み<sup>わくぐみ</sup>をわざわざAのように設定して、あなた方一般乗客は、どんな場合にも絵記号シートに該当する人を優先する心がけを持たなくてはいけないのですよと啓蒙<sup>けいもう</sup>しているような、<sup>①</sup>押し付けがましい姿勢についてである。

私たちは、ごく普通のBを備えていれば、たまたま街や乗り物のなかで困っている人に会ったときに、思わず援助の手を差し伸べるものだ。

もちろん<sup>②</sup>その意志の発動にはそれぞれに限定条件がある。その種の人がいることに気づいたとき、私たちのなかにはいろいろな心理が働く。たとえば、自分からは距離が遠すぎるから、近くの人がやってくれないだろうかとか、わざわざ前で「善行」を示すのは<sup>③</sup>スタンドプレイのように見えて気恥<sup>きぢ</sup>ずかしいとか、こっちは今仕事でくたくたなのだから他人になど<sup>④</sup>カマつていられないとか、この人は席を譲るほどいたわられるべき人だろうか、かえってプライドを<sup>⑤</sup>キズつけられる

のではあるまいか、など。

また、人間性といつてもいろいろである。まわりによく気配りしている人もいれば、自己中心的であまりまわりのことなど考えていない人、親切の押し売りをしたがる人など。

これらは、ときに応じて複合的に作用して、席を譲る、譲らないの選択を条件づける。しかし、赤の他人が肩を触れ合う距離で接触<sup>せつしよく</sup>しなくてはならない電車のなかのような空間では、こういう限定条件は、それが他に迷惑<sup>めいわく</sup>を及ぼすものでない限り、そのまま認められるべきなのである。「みんな、弱い人には優しい同情心を持つように常に心がけましょう」などという思想は、日常の個々の具体的な場面では、動機の一つとしての意味しか持たず、また<sup>⑥</sup>それ以上の強制的な意味を持つべきではない。

よく、「今の若い者は眼の前に年寄りがいるのに、席も譲らない」などと、人心の荒廃<sup>こうはい</sup>ぶりを嘆く向きがある。たしかに都会では、個人主義的傾向<sup>けいこう</sup>が進んで、眼の前に何があってもなるべくかわりたくないという心理が、若者だけでなく、私たち一般に浸透<sup>しんとう</sup>している側面はある。それには、見ず知らずの他人に対するCも手伝っているだろう。

しかし、不届き者はいつの時代にもいる。また一方には、「茶髪<sup>ちやぱつ</sup>、ピアスのおにちゃん」が、とても優しく親切にしてくれた。今の若者、捨てたもんじゃない」といった経験談のたくいもたくさんある。そういうわけで私自身は、明確な「人心の荒廃」の兆候などあまり信じていないのである。逆にかつての時代が、そんなに良識あふれた時代だったとも思えないからだ。

人間のこういう部分というのは、あまり変わらないと思う。優しい人、冷たい人、積極的な人、消極的な人、いろいろいるが、眼の前の事態が深刻であれば、それに応じて援助の行動はそれなりにあらわれるものだ。重大な交通事故が起きたときや阪神・淡路大震災<sup>はんしん・たんろだいしんさい</sup>のときの人々の対応などを見ると、<sup>④</sup>そのことがよくわかる。

シルバーシート、優先席のようなことさらな区画づけは、かえって、

X

効果を生む<sup>①</sup> カノウセイの方が高い。

人々は、そういう区画づけの前に立たされると、概して「そこに座りたいという意に反して、仕方なく規則に従う」という心理的な反応しか示さない。

他の席がふさがっていて、立っている人がけつこういるのに、優先席だけは空いているという光景にしばしば接することがある。これは、優先席に座ること、その該当者が乗り込んだときに規則に従って立ち退かなくてはならない心理的なフタ感<sup>⑦</sup>を、あらかじめ避けようとするのである。多くの人が、そこに空席などはないものと見なすのだ。そのことによつて、かえつて人は、「弱者」との個別の接触を避けることになり、そういう問題を自分で考えたり自らの意志で行動したりするきっかけを失うことになる。

私自身は、「優先席」だろうとそうでなろうと、席が空いていればかまわずに座ることになっている。「優先席」に座っていて、該当者が来たら、よほどのことがない限り譲るだろう。その心づもりは、普通の席に座っている場合も基本的には同じである。ただしこれは正直なところ、すでにそういう区別がなされているという事態に対するかなり意識的な対応であつて、「優先席」に座っている場合に、その「規則」的なものから拘束<sup>こうそく</sup>されている窮屈<sup>きゆうくつ</sup>な感覚をまったく抱かないと言つたら嘘<sup>うそ</sup>になる。

つまり「優先席」の存在そのものが、自然な同情や親切心の発露<sup>はつろ</sup>を封じ込め、かわりに、<sup>⑤</sup>気後れ<sup>きわく</sup>やこわばりの意識を誘<sup>ゆう</sup>発<sup>はつ</sup>しているのだ。

③ スタンドプレイ……目だつためのわざとらしい行為

(小浜逸郎「弱者」とはだれか」による)

問一 — 線②、③の片仮名を漢字に直しなさい。

問二 — A、Cに当てはまる言葉として、適当なものを次のア、イ、ウの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

| A |       | B |     | C |     |
|---|-------|---|-----|---|-----|
| ア | メディア  | ア | 人間性 | ア | 好奇心 |
| イ | ルール   | イ | 内向性 | イ | 公共心 |
| ウ | テーマ   | ウ | 整合性 | ウ | 自尊心 |
| エ | メッセージ | エ | 民族性 | エ | 競争心 |
| オ | イメージ  | オ | 因果性 | オ | 警戒心 |

問三——線①「押し付けがましい姿勢」とありますが、筆者がこのように言うのはなぜですか。その理由として適当なものを次のア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 多くの人々が「弱者」をいたわる心情など持っていないにもかかわらず、個人の考え方を無視して縛りつけようとしているから。

イ もともと親切心は誰もが持ち合わせているにもかかわらず、「弱者」への思いやりを強制しているように感じられるから。

ウ 公共的な乗り物は誰のものでもないにもかかわらず、あたかも「優先席」が「弱者」だけのためのもののように考えられているから。

エ その人が「弱者」に配慮できないほどに疲労しているかもしれないにもかかわらず、個人の事情については全く配慮が感じられないから。

オ 誰もが同じだけの運賃を支払って乗車しているにもかかわらず、「弱者」を特別扱いすることを無理強いしているから。

問四——線②「その意志の発動にはそれぞれに限定条件がある」とありますが、これはどういうことですか。その説明として適当なものを次のア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手がどのような人物かによらず、思いやりさえ持っていれば親切にふるまえるということ。

イ 「優先席」の表示があることによって、多くの人が思いやりを持てるようになったということ。

ウ 親切心を持っても、他人に対して常に親切な行動を取れるとは限らないということ。

エ 自己中心的な人が多い現代社会には、人助けを行う人などどこにもいないということ。  
オ 他人に対する親切は、その種類によって時間帯や環境の制約を受けるということ。

問五——線③「それ以上の強制的な意味を持つべきではない」とありますが、筆者がこのように考えるのはなぜですか。その理由として適当なものを次のア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 都会では人心が荒廃してしまっており、強制しても意味がないと考えているから。

イ 「弱者」をいたわる心情が、必ずしもいいものであるとは限らないと考えているから。

ウ 親切の押し売りをしたがる人に、そういう役目を残しておくべきだと考えているから。

エ 絵記号シールに該当する人を見れば、誰もが席を譲るはずだと考えているから。

オ 親切を強制しなくてはならないほど、冷たい人ばかりではないと考えているから。

問六——線④「そのこと」とありますが、これはどういうことですか。その内容を四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問七

X

に当てはまる部分として適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自然な接触による自然な同情心の発露を抑制する
- イ 自然な良識による自然な警戒心の発露を抑制する
- ウ 自然な教育による自然な好奇心の発露を抑制する
- エ 自然な会話による自然な向上心の発露を抑制する
- オ 自然な交際による自然な競争心の発露を抑制する

問八

——線⑤「気後れやこわばりの意識を誘発している」とありますが、これはどういうことですか。その内容を八十字以内で説明しなさい。

問九

——線「違和感」とありますが、筆者が「シルバーシート」や「優先席」に対して感じている「違和感」の原因はなんでしょうか。その説明として、適当でないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「優先席」を用意することで、多くの人の親切心を誘発することができると思われること。
- イ 公共的な乗り物に乗る全ての人に、一様に同じレベルでの親切が要求されていること。
- ウ 多くの人が、外から命令されることなしに親切をすることがないと考えられていること。
- エ 「弱者」でない人は、「優先席」を一切使うことができないようにしようと考えられていること。
- オ 「優先席」があることによって、むしろ「弱者」への思いやりが失われるように感じられること。

解答用紙

[illegible]

|     |
|-----|
| 得 点 |
| 点   |

| 【二】 |    |  |  |  |    |    |  |  |    | 【一】 |    |    |    |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    |    |   |  |   |
|-----|----|--|--|--|----|----|--|--|----|-----|----|----|----|----|----------|-----------|---------|-----|----|----|----|--|--|----|----|----|---|--|---|
| 問九  | 問八 |  |  |  | 問七 | 問六 |  |  | 問五 | 問四  | 問三 | 問二 | 問一 | 問八 | 問七       |           |         |     | 問六 | 問五 | 問四 |  |  | 問三 | 問二 | 問一 |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    | A  | ㊦  |    | このように三者は | そして、トメさんは | また、クビワは | ゼロは |    |    |    |  |  |    | A  |    | ㊦ |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     | B  |    |    |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    |    | B |  | ㊦ |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    | ㊦  |    |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    |    |   |  | ㊦ |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     | C  |    |    |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    |    | C |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    |    |   |  | ㊦ |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    | ㊦  |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    | ㊦  |   |  |   |
|     |    |  |  |  |    |    |  |  |    |     |    |    |    |    |          |           |         |     |    |    |    |  |  |    |    |    |   |  |   |